

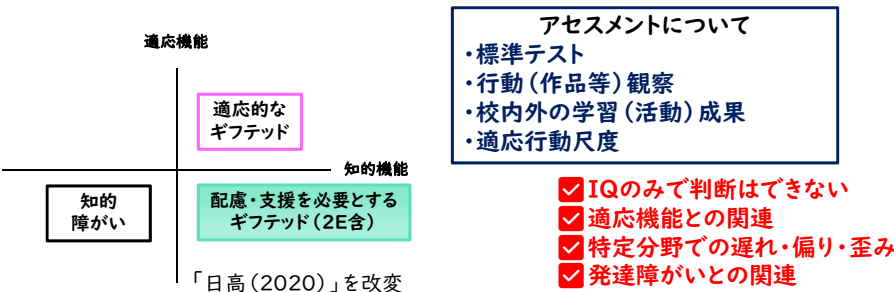
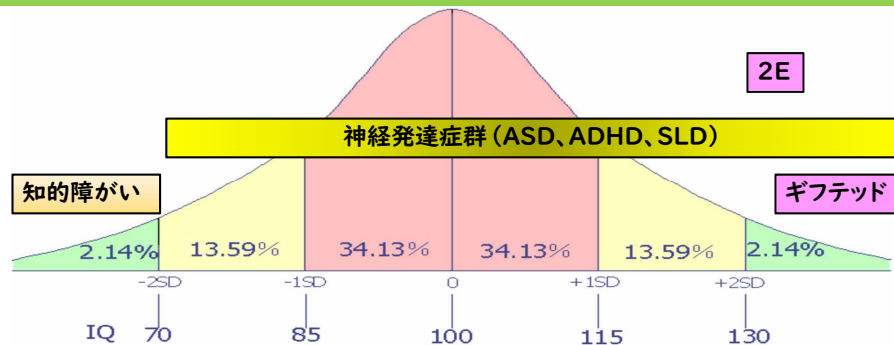
特別支援教育 あどばいすタイム

特定分野に特異な才能のある児童生徒

～ギフト、2E等多様性への理解と対応～

徳島県立総合教育センター 特別支援・相談課
指導主事 佐藤長武

特異な才能のある児童生徒とは



こんな子いませんか？

- ・興味のあることは徹底的にこだわって調べる
- ・答えにとまどうような変わった質問をよくする
- ・興味のあることの知識・技能を素早く理解して覚える
- ・発想が突然に大きく飛躍する
- ・算数・数学で上位学年相当の問題を簡単に解ける
- ・ことばでうまく説明できなくても、直接的に正答を出す
- ・指示どおりではなく自分のやり方でやろうとする
- ・簡単でくり返す学習は、退屈して嫌がる
- ・文章の内容は深く理解できるが文字の読み書きに苦勞する
- ・スポーツ競技で好記録を出す
- ・文化・芸術活動で才能を発揮する

「松村(2023a)」を改変

- ☑ こんな児童生徒、どのクラスにも在籍しています
- ☑ 今日のお話は、このような児童生徒が対象です

※「特定分野に特異な才能のある児童生徒」について、本資料では、「特異な才能のある児童生徒」と表記します。

特異な才能のある児童生徒の特性把握

○教師が子どもの行動で注目すべき才能特性

・認知的特性

- ・能力(知能、MI[多重知能]、学力)
MI: 言語・論理数学・音楽・身体運動・空間・対人・内省・博物的知能
- ・興味(の領域)
- ・スタイル(認知、学習、思考)
思考スタイル

・発達(段階・年齢等)の標準・定型からのズレ(誤差、異常、遅れ)
(発達の凹凸・非同期性): 誰もが同一の発達の道筋を辿る



発達是个性的に枝分かれ 個人ごとに形がユニークな樹に育つ

多面的な特性の複合的プロフィール(発達多様性)(得意、興味・関心)

「松村(2023a)」
「文部科学省(2022)」

- ☑ MIと思考スタイルを柱に得意・不得意を把握

特異な才能のある児童生徒の困難

・特異な才能ゆえ学習上、生活上の困難を抱える児童生徒が身近にいる

・「才能による困難」のある児童生徒

学習面：授業が簡単過ぎて退屈・苦痛

対人面：同級生との会話や友人関係の構築に困難

教師の対応：授業の進め方、自分への関わりについて疑問

・要因となるOE (overexcitability: 超活動性)

- ①知的：好奇心、知的探求、問題解決
- ②情動的：強い感受性、感情表現、共感
- ③想像的：豊かな想像力
- ④運動的：高い身体的活動性、脅迫活動
- ⑤感覚的：敏感な五感、強い美的感覚

・OEが適応的に働く
熱中・望ましいこだわり等

・OEが不適応的に働く
困ったこだわり
神経症的完璧主義などの問題行動

「文部科学省(2022)」

特異な才能のある児童生徒の困難

○2E (twice-exceptional、二重に特別な)

- ・才能と障がいを併せ有する
(例; 数学が抜群に得意/優れた空間認知能力 + 読み書きの障がい)
- ・二重の支援を要する(才能を伸ばす + 障がいによる困難を補う)
- ・才能と障がいのどちらかが隠れている場合もある

○教室で2Eの子どもに気づく手がかり

・何らかの才能の片鱗を見せながら、一方で、

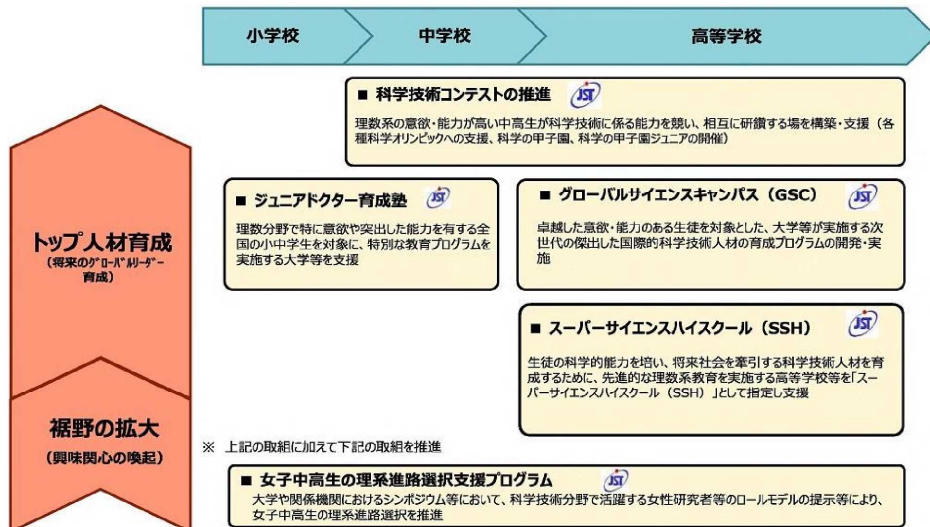
- ・場面によって一貫して「一貫性がない」(得意・苦手が大きく異なる)
 - ・「やる気があればできるのに怠け者だ」と見なされる
 - ・ものや課題をきちんと整理できない
 - ・文章を書くのが苦手
 - ・社会的行動が苦手
- ☑ 特定分野での遅れ・偏り・歪み

○才能が原因の不登校

- ・不登校や登校渋り(浮きこぼれ)
- ・才能を考慮した学校内外での不登校への対応も有意義
才能のある子が行きたくなる教室づくりを!

「松村(2023a)」

多様な指導・支援の場



トップ人材育成
(将来のグローバルリーダー育成)

裾野の拡大
(興味関心の喚起)

CSTI 懇談会 (2021.6.24) 文部科学省提出資料：理数教育の充実に向けて
> JST理事長記者説明会 (2017.03.29) 次世代人材育成事業

「松村(2023b)」

多様な指導・個別最適・協働的な学び

○得意な才能のある児童生徒への効果的な支援の例

- ・早習：上位学年の早期履修・単位修得あり(飛び級等)
- ・拡充：上位学年の早期履修・単位修得なし(才能クラス等)
※ メリット、デメリットを考慮しつつ検討

○得意な才能のある児童生徒への効果的な支援の例

- ・正しい答えだけでなく、「何故、そのように考えるのか」考え方を発表させてくれた先生のクラスは非常に楽しかった
- ・自己肯定感が低いので、自信をつけさせる声かけをしてもらったことが有効であった
- ・暇になってしまう時間に他の生徒を助けさせるなど役割を与えると授業に参加できた
※ ICTの活用、特性に応じた口述や筆記の選択、支え合う、友人関係、教師間の情報共有、養護教諭、SC、学校司書等による支援、学校外の学びの場なども効果的

○教師個人・学校で十分対応できない場合は学校以外の支援の場につなげる

- ・学校以外の学びの場の活用
大学・民間事業者・非営利法人・教育支援センター等
(大学研究所・民間の学習の場・博物館・コンテスト等)
- ・実証研究を通じた実践事例の蓄積
(学習面・生活面にわたる学校と学校以外の機関との連携による指導・支援の方法)

「文部科学省(2022)」

「松村(2023b)」

多様な才能のある児童生徒の困難への対応

○個別最適・協働的な学びで、困っている才能のある子ども共通に才能を活かす

- ・通常学級で内容・方法が適合した学習に、才能や困難のある子どもも包摂
- ・「多様な児童生徒を誰一人残さないという観点から・・・個別最適な学びの機会を公正に確保する視点を持つ」
- ・才能や困難が多様で異質な子どもどうしのやり取りを通じて、互いの特性を尊重して補い合い、優れた問題解決や創造の成果が生まれる集団作りが重要

○2Eの子どものニーズに応じる2E教育の理念

- ・2Eの子どもには、才能と障がいを同時に考慮した対応が必要
- 例：算数・数学や文章について、時間をゆっくりかけた高度な学習
- ・通級指導教室、特別支援学級との連携、居場所の整備も必要

現行の仕組みを駆使して、子どもたちの才能を伸ばせるような、
多様な学びの場の保証・整備を

「松村(2023b)」

【参考文献】

- ・日高茂暢(2020)知的ギフトドの子どもの持つ特別な教育的ニーズの理解—特別支援教育の「個に応じた学習」を用いたインクルーシブな才能教育—、佐賀大学教育学部研究論文集4(1)、pp.147-161.
- ・松村暢隆(2021)才能教育・2E教育概論—ギフトドの発達多様性を活かす—、東信堂.
- ・文部科学省(2022)特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議審議のまとめ～多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として～.

【研修動画】

○独立行政法人教職員研修機構、校内研修シリーズ

- ・松村暢隆(2023a)特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援Ⅰ；「特異な能」の理解と捉え方、校内研修シリーズNo.122.
- ・松村暢隆(2023b)特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援Ⅱ；才能が輝く個別最適な学びと協働的な学び、校内研修シリーズNo.123.